

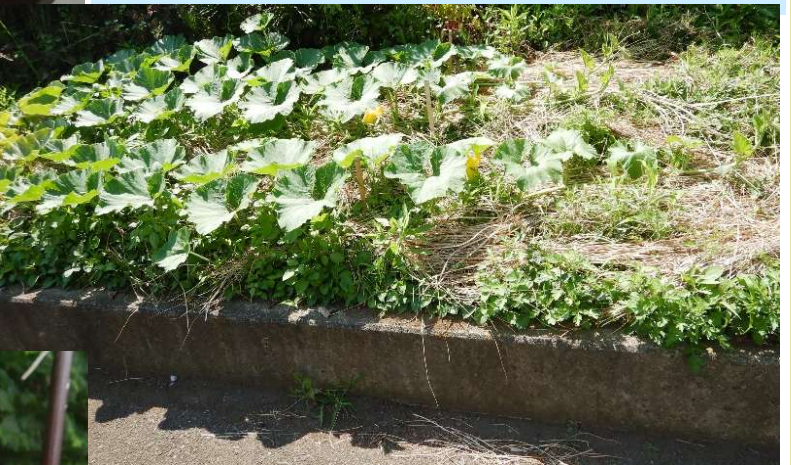
おばけカボチャ育成中

10月になるとハロウィン向けにレストハウスで「おばけカボチャ」を展示しますが、この風習は中部ヨーロッパの古代ケルト人が魔除けのためにカブでランタンを作ったことから始まったようです。これがアメリカに渡った際に生産量が少なかったカブではなく、生産量が多くて形も大きいカボチャを使うように変化して世界中に広まったようです。



本来であればカボチャをくり抜いてロウソクを立てるランタンにするべきかもしれませんが、しかし、当公園ではくり抜かず、カボチャの表面に悪霊のような顔を書いて展示しています。さらに、イベントとして重さ当てを行うので、大きく育つアトラントジャイアントという種のカボチャを育てています。

カボチャは作業場内の通路脇にある斜面地に5月下旬から別の場所で育てた苗を植えています。1株から何本ものつるを伸ばしますが、斜面地の形に合わせてつるを2本に絞って育てています。



雄花



雌花の蕾

受粉できた花は、枯れた後に下部に直径2cmくらいのカボチャを残します。育ち始めたカボチャは艶がある球形で白っぽい緑色です。実が育ち始めると大きくするために数を減らします。

6月初旬から花は咲き始めますが、ほとんどが雄花です。カボチャは雌雄の花が同じつるにつきます。雌花は6月下旬ころから現れますが、咲く前の蕾の時点で受粉するとカボチャに育つ実の部分の花の下に着けています。結実させるために、これを目印に受粉させます。



カボチャは育つにつれて色付き始めるとともに、重さで土に沈み込み、接する面積が増えます。すると土中に住む虫類がカボチャに穴を開けて住み着くので、カボチャの下に下駄状の板を敷いて防除します。

こうして育てた巨大なカボチャを10月初旬から展示します。今年も大きな「おばけカボチャ」を育てたいと思います。